

- * 「私たちの格闘は血肉にたいするものではない」 (エペソ 6 : 12)
 とは、この世の人や組織と闘うわけではなく、その背後にいる悪魔と闘う、私たちは罪と闘うのではなく、罪を犯させる悪い霊と闘うのである。私たちの実際の霊的闘いには、1. 私たちの内側の罪の誘惑 (道徳的罪、神に信頼しないなど) 2. 人間関係における葛藤 (人を愛せない、許せないなど) 3. 他宗教や異端との闘い (習俗、慣習など) 4. 政治的な圧迫 (信教の自由や真の平和を脅かすもの) などがある。
- * パウロが「主の囚人」と言い、「鎖につながれている」と言ったように、イエス・キリストの忠実なしもべであり続けたために、牢獄に入れられていた。形成されたばかりの教会は世の激しい波に揺られ、迫害を受けていた。このような困難な時を乗り越えて行くために「カタコンベ」と呼ばれる地下の墓地に入り込んだ。今でもローマ郊外には多くの「カタコンベ」が残っている。彼らは、信徒たちを葬った場所で生活し、礼拝し、励まし合って生きていた。魚 (イエス・キリスト、神の御子、救い主を表す) や錨 (主にある永遠のいのちの希望を表す) などのシンボルマークが用いられた。
- * 「終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。
- 悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。」 (エペソ 6 : 11 ~ 12) イエス・キリストといつも共にあってその無限の力を借りなさい。私たち自身の力は弱い。この世の悪魔は手ごわいが、キリストに依り頼めば打ち勝つことができる。「あなたかたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」 (ヨハネ 16 : 33) 十字架の死からよみがえられたイエスはすべての勝利者である。この方にゆだねよう。そして、私たちにすでに与えられている神のすべての武具をしっかりと備えよう。すなわち、「真理の帯を締め」「正義の胸当てを着け」「平和の福音を履き」「信仰の大盾をとり」「救いのかぶとをかぶり」「神のことばである剣」を受け取って闘おう。*
- * マルチン・ルターは悪魔の悪質な策略に対抗する手段はみ言葉であり、み言葉のそばに留まり、み言葉と付き合い、み言葉を自分の力で抱きしめることがこと大切。そのためには数人でみ言葉について話し合い、み言葉の生きた声を聞くことが有益であると説いている。勝利と希望が待っている。